

立志忘れない会 13

2年間「寝・食・勉・遊」を共にした協同組合短大と立志舎、
志を立てて上京し、また、より大きな志を持って社会へ巣立った学び舎を、
その志を忘れない会13期。

改めて、立志舎に育ったこと、立志を忘れまい！まだまだ光希青年でがんばろう！

2023TOKYO光希高齢前後のつどい

1969(昭和44)年卒業後、50周年を記念して半世紀同窓会はコロナ禍でなかなか開催できず
ようやく集まった2023年6月22日。前回和歌山2019から4年ぶりでした！

卒業から54年経ち、69名の同期同窓生時は、13名が他界。

おおよそ半数が光希高齢者！

文責 勝手に作成者 有吉政博(山口)



黙とうに次いで校歌斉唱と乾杯！



武蔵野の空は広く

降る光 地にあまねし

見よ見よ

ここに満つる若き命を…

～おお青春は強し美わし～♪

今もって、すばらしい校歌だね！

マイク持つのは、校歌は前沢君、乾杯は園田光希(輝)高齢者代表

談・(笑)・(笑)・語



山城さんと菊池さん
マドンナ参加で雰囲気andraぎました！



右端、長野君<千葉>は熱海以来の参加



宇佐美(北海道)夫妻



小山夫妻(兵庫)



今回は以下、カップル参加者紹介！



山下(愛知)夫妻



山本夫妻(北海道)



小山(秋田)夫妻



大分 佐野君⇒も熱海以来の参加

今回監事

前野君、長坂君、河部君の在京3名



会場はスカイツリーが正面に見えるホテル



開催記録

初回熱海(1997)
淡路(2004)帯広(2007)
長野(2009)山口(2011)
岩手(2013)福岡(2015)
出雲(2017)和歌山(2019)

ここから2次会・部屋での次回打合せ



こういう雰囲気の中、
これで集まるのは最後にしようという
意見や、
集まれる者だけで北海道、美土路先
生の墓参をしようという意見もある
中、、、
次回開催を、この人が立候補！

次回開催は茨城

大藤(坂)君中心に群馬斎藤
(小杉)君、千葉長野君と一緒に
手伝ってもらうことにしました。



今後の運営について世話役

を決めました。

北海道	宇佐美
東北	小山(秋田)★
関東	前野(東京)★
東海・甲信越	前沢(長野)★
近畿	小山(兵庫)
中四国	有吉(山口)★
九州	園田(福岡)★

★マークした人は、ラインのグループ
で日常連絡できますので、小さなこと
は、そこで相談して進めるようにした
いと思います。

で、今回の立志忘れない会報もそこ
では事前に見てもらいました。



協短大跡の石碑を訪ねました

協同組合学校教育ここに興る 宮部一郎著の碑の裏には歴史が刻まれていました！



裏面説明：一部抜粋

(志村源太郎が私財を投じて立志舎を設けたことを記載した前文略)
昭和30年に、わが国一般学校教育制度の動向に合わせ、立志舎周辺の土地を買収しここに協同組合短期大学を発足した。諸般の経過を経て、昭和48年同大学解散に至るまで40数年の間、数多くの人材がここを巣立ち、わが国協同組合運動の発展に大きく貢献した。(略)

協同組合教育興隆の基点となるこの地を記念して之を建てる



立志忘れない会 13 番外編:石飛豊さんを偲ぶ会報告

亡くなった方も13名になりますが、ここでは、日本生協連の有志が開催された偲ぶ会に、同窓生も出席しましたので、その内容報告を入れました。(偲ぶ会の報告書転用)



2019年9月7日、四谷駅前会議室で5月16日急逝した石飛 豊さんを偲ぶ会を開きました。会には、九州から北海道までの協同組合短大時代の同期生(9名)はじめ、各地の生協(5名)、産直調査の学識者(2名)、取引先(5名)、日本生協連の先輩・同僚・後輩44名、石飛ふみ子・池田薫さん(長女)67名が出席でした。



■協同組合短大時代の同期生でお互いに生協に入ったコープやまぐちの有吉政博元理事長が「短大廃校問題での活躍とリーダーシップ。入協しコープやまぐちの再建時代に励まされ、情報提供を受けたり、突然現れて飲んで議論し癒された。石飛流の生き方を貫いた君にお疲れ様と送るのはとてもさみしい、ありがとう」。

協短大時代の恩師美土路達夫先生(1992年没)の長男の美土路知之さん(日本農大教授)が「私の世田谷区八幡山の自宅で、当時高校生だった私は、いがぐり頭で口下手な出雲から出てきたばかりの石飛さんに初めてお会いしました。その後、短大廃校問題で闘う石飛さんたちが連日、わが家を訪れ、食べ・休み・泊まりと、まるで梁山泊のようだった記憶があります。短大の2年間、闘争に明け暮れ、勉学は疎かになったかもしれませんが、闘争の場において、彼が、『生きた勉強』『たゆまぬ実践』を貫かれたことが、『石飛レガシー』として多くの人びとの胸に刻まれているともいえます。そして、それを支えられたご家族には心からの敬意とお悔やみを表します。どうぞ、安らかにお休み下さい」と話されました。



協短大時代の同期生の前澤憲雄さんは「彼との出会いは、二人で新聞部に入り、「協短大を4年制大学にするキャンペーン」でした。その最中に「協短大を廃校し町田に新学園を設立する動き」を察知し、「廃校反対闘争」を始めた。私がまず情報を拡大し盛り上げ、組織ができてきたところで石飛君にバトンタッチすると水を得た魚のように自治会を中心に反対闘争を組織していくと役割分担して進めた。石飛君は決断力、豊富な読書量、適格な批判力、人を観る力、表と真逆な相手に対する深い愛情、厳しい指導力と時折見せる寂しげな顔など、何か傍にいて手助けしたいと思うような魅力がありました。石飛君、今日は各地から13回生が参加しているよ。その内そっちに行く、その時はゆっくり議論しよう。お疲れ様でした。心から哀悼の意を表します」と報告くださいました。